

作成（2025 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	長谷部葉子
所属機関名	教育推進機構
職位	教授
在籍年	前任校 20 年、OUS10 ヶ月半

教育の責任

基盤教育 教育推進機構に所属する立場として、現在は教育学部とアクティブラーナーズコースを対象に授業を担当しています。いずれの場合も、在籍する学生が各々の個性を生かし、自らの持って生まれた存在感を高め、それぞれの得意とする、あるいは強い興味関心分野に関して妥協なく、意欲的に学問として取り組み、社会における自らの進路を自信を持って選択し、その立ち位置を自らの力で獲得することができるようになる、指導、学問環境を整えること。個々人の学生が心身ともに健康にある状態をできる限り保証すること。

教育の理念

- ・「子どもを死なせない」教育機関に在籍する人を「子ども」と捉えた場合、臨む教育を受けられる、喜怒哀楽のすべての過程を自らの力で経て、自らの努力が報われる、自らの命、個性、能力、興味関心のすべてを「死なせない」持続的な教育環境をつくること
- ・「一度つないだ手は離さない」教育機関での教え子としての縁は一生ものであると考え、現在から将来に至るまでの人生設計の中で、サポートをし続け、信頼関係に基づいたコミュニケーション環境、人間関係をつづけること
- ・師弟関係にとらわれすぎず、半学半教精神で、共に学び合う、時には教え子からの学びを尊重する柔軟かつ開かれた視点を持ち続ける。教育者としてのオープンマインド。

教育の方法・方針

理論と実践の両輪での実践的教育活動。「大学を地域にちりばめる、地域を大学にちりばめる」というコンセプトでの域産官学連携の教育・研究環境でのフィールドワーク体験を必須とし、社会との設定、学問の原点となる「暮らし」を基盤としたフィールドワークでの成長を重視する。この経験に基づいて初めて大学での理論構築が独自の研究成果として実を結ぶ。域産官学連携の中で自らの独自性、新規性のある研究を探究する上で、異なる学問領域、多様な立場の関係者に理解され、共感を得られるコミュニケーション能力の育成（書く・読みとる・話す・聞く力の徹底的育成）による、意識変容・行動変容をもたらせるプログラムを提供し、自らの実体験を開かれた学問として確立できるようにする。

教育の成果

自立・自律的な、個々の専門領域でのリーダーの育成。各学生が自らの専門分野に自信を持ち、実践的フィールドと理論の両輪を極め、独自の専門性を打ち立て、地球市民として、社会とアカデミアの広い分野で活躍してゆくかくっことした足掛かりを大学在学中に固めること。

今後の目標

学生の意志と専門性を「自らの好き」と結び付けた教員が共に取り組む、学生主体のフィードバック、プロジェクトの立ち上げ。その持続可能性を見据えた多様な専門領域融合型の域産官学

連携プログラムづくり。

根拠資料

「『元気村』ははこう創る」実践・地域情報化戦略 國領二郎・飯盛義徳編 日本経済新聞出版社

「農で輝く！奇跡の農園」ホームレスや引きこもりが人生を取り戻す 小島希世子 河出書房新社

「未来への貢献」産学の対話 2004 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス SFC フォーラム事務局編 水曜社

「新時代の創造」産学の対話 2005 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス SFC フォーラム事務局編 水曜社

「創新の世紀へ」産科学の対話 2006 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス SFC フォーラム事務局編 水曜社

過去 20 年間に作成して来た長谷部葉子研究会活動ジャーナル、記録映像など。